

研究・調査報告書

報告書番号	担当
271	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
Amount and Frequency of Alcohol Consumption and All-Cause Mortality in a Japanese Population: The JMS Cohort Study 日本人におけるアルコール摂取量および頻度と総死亡率:JMS コホート研究	
執筆者	
SADAKANE Atsuko, NAKAMURA Yosikazu, GOTOH Tadao, ISHIKAWA Shizukiyo, KAYABA Kazunori.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Epidemiol、Vol.19 No.3 Page.107-115 (2009)	
キーワード	
日本人、アルコール摂取量、総死亡率、コホート研究	
要 旨	
<p>軽度～中程度のアルコール摂取者では、死亡率が低いことが報告されている。筆者らは、日本人においてアルコール摂取の量および頻度と総死亡率の相関を調べた。筆者らは 1992 年から 1995 年にベースライン調査を終えた 8934 人の日本人（3444 名の男性、5490 名の女性）において前向きコホート研究を行った。死亡証明書を参照して死亡日時と原因を確認した。Cox 比例ハザードモデルを用い、潜在的交絡因子で補正後、総死亡におけるアルコール摂取の影響を評価した。平均 12 年の追跡調査期間中に 637 名（397 名の男性、240 名の女性）の死亡を確認した。男性において、非飲酒者と比べた場合、元飲酒者では相対的な総死亡リスクが高く（ハザード比 1.18）、軽度の飲酒者（ハザード比 0.95）と中程度の飲酒者（ハザード比 0.91）では総死亡リスクが低く、重度では有意に総死亡リスクが高くなった（ハザード比 1.67）。女性では、軽度、中程度、重度の飲酒者を現飲酒者として分類した。この結果、非飲酒者と比べた場合、相対的な総死亡リスクは現飲酒者でわずかに高く（ハザード比 1.23）、元飲酒者ではほぼ 1（ハザード比 0.95）であった。層別分析において、大量飲酒の有害な影響は男性の喫煙者と若年者でより深刻であった。頻度については、特別な場合のみに飲酒する男性は飲む機会ごとのアルコール摂取量に関わらず、最も総死亡率が高かった（ハザード比 1.28）。以上より、男性において、アルコール摂取量と総死亡について J 型に近い相関が見られた。そして、アルコール摂取量と頻度の両方が死亡率に関連していることがわかった。</p>	